1550 Single Photon RCTの骨腫瘍への臨床応用

梅田 透，高田典彦，保高英二（千葉がんセンター，整） 油井信春，木下富士美，小圷正木（同・核医） 秋山芳久（同・物理）

骨腫瘍への骨シンチグラムの有用性は，病変の部位範囲，治療経過などを，単純X線像よりも，鋭敏に表わすことにある。我々は以上の特徴をふまえ，骨病変を3次元的に把握するために新たに開発された，2検出器回転型全身カメラ装置によるSingle Photon RCTを行い，臨床応用を行った。
装置は対向する検出器を6度毎に情報を収集，電算機処理を行う。骨肉腫症例における胸部の転移巣は，通常の骨シンチグラムでは肋骨のため検出することはできなかったが，RCT像では，転移巣と思われる病変を抽出できた。また，収集された情報より構成された像を，回転させて表示する（シネマイメージ）ことにより肋骨及び，骨盤病変のより明瞭な検出が可能になった。症例を示し，臨床的有用性について述べる。

2501 骨シンチグラムによる腎性骨異栄養症の分析の試み

勝山直文、石井千佳子、吉武晃、月岡光子、森豊、河合隆、川上憲司（慈大、放）

慢性透析22例、腎移殖3例の計25例を対象に骨代謝異常の検索を目的として骨シンチグラフィーを施行し骨シンチ、全身像より5群に分類した。①正常分布3例、②軟部組織への集積が増加し、骨集積が減少しているもの10例、③軀幹部の骨集積が増加しているもの4例、④四肢骨の骨集積がより高いもの2例、⑤骨全体の集積が高いもの4例であった。

コントロールとして、腎疾患のない症例についても検討したがそのほとんどはI型を呈した。大腿部における骨と軟部組織のカウント比を求めた結果、②群の平均1.46±0.25であり、その他の群の平均2.00±0.60正常群（コントロール20例）2.00±0.10に比し著しく低値を示した。

その他の所見として心臓部への集積が11例に、頭蓋骨のみに高い集積をみたもの1例、両肺野に強い集積をみたもの1例、多発性骨折1例であった。以上の骨シンチグラフィー所見と、臨床所見、X線所見、骨塩定量値、骨バイオプシーの結果との関連についても検討した。

2502 膝蓋骨の局所性集積を示す疾患の骨シンチ

小野 慈，中森昭敏，田之畑一則，小田切邦雄，酒井文彦，朝倉浩一，松井謙吾（横市大・放）腰野富久，大橋義一（横市大・整外）

膝関節痛を主訴とする疾患のうち，骨シンチ上膝蓋骨のみに局所性集積を示す病態の骨シンチ所見をまとめた。

昭和53年より55年までの3年間に経験した膝蓋骨疾患（分裂膝蓋骨 14例，骨折 3例 のう腫他3例）20例を対象とした。^{99m}Tc-MDP 5～10 mCi 静注2～3時間後に両膝関節部の正面像をシンチカメラにて撮像し，必要に応じて側面像を追加した。

骨折の集積は高く，膝蓋骨全体に及ぶ傾向を示した。分裂膝蓋骨の集積程度は無所見（6関節），中程度（7），高度（5）と種々であったが，局所性集積のほとんどは膝蓋骨外上方に位置しており，分裂部位と一致した。しかしながら疼痛と集積程度の関係はうすかった。

分裂膝蓋骨の骨シンチ所見は未だ報告がなく，本症の約半数が局所性集積を示すことは，読影の参考に資するものと考える。治療方針への骨シンチの役割りについても考察を加える。

2503 胸壁合併切除を行った肺癌患者における術前の骨シンチグラム

河原正明[1]，黒岩範安[2]，森秀世[2]，荒井六郎[2]，沢村献児[3]（国療近畿中央病院，内[1]，放[2]，外[3]）

肺癌による胸壁浸潤が考えられ，胸壁合併切除が行われた症例において，術前骨シンチグラムの有用性を検討したので報告する。

対象は，胸壁浸潤があり胸壁合併切除を施行された肺癌10例である。全例男性で，年令は33～71才，組織型は扁平上皮癌4例，腺癌3例，大細胞癌3例であった。^{99m}Tc-MDPによる骨シンチグラムならびに肋骨X線像から得られた浸潤部位の肋骨所見を，切除された肋骨の組織学的所見と対比した。

骨シンチグラムおよび骨X線像で異常所見なしが5例あり、いずれの症例にも癌浸潤は認められなかった。両検査所見が異常であったのは1例で，癌浸潤があった。骨X線像で異常所見なく，骨シンチグラムで異常が2例あり，いずれの症例にも癌浸潤が認められた。すなわち，10例中8例において，骨シンチグラムは肋骨への癌浸潤の有無の検査に有用であった。しかし，骨シンチグラムで偽陰性が1例，偽陽性も1例あり，これらの症例にも検討を加え報告する。

Presented by Medical*Online